

学位被授与者氏名	清水 杏花音 (しみず あかね)
論文題目	異文化コミュニケーションとしての日中翻訳 ー翻訳理論に基づいてー
論文審査結果の要旨	<p>日中間の翻訳について、「言葉」による誤訳は語彙や文法などの原因及び対策は多く研究されているが、「文化」的要素による誤訳はまだ研究の余地があると思われる。特に、翻訳における「文化」的な要素配慮の欠如に関する研究は文学作品などといった「表現型テキスト」に集中している現状の中、現実生活にあるコミュニケーション場面における広告や宣伝などの「効力型テキスト」を取り上げた本研究は現実味があり、意義が大きい。また、ケース分析にあたって、翻訳の正誤判断を主観的に行うのではなく、中国の社会言語学の第一人者である陳原氏が提案した「モデル分析法」(「用例模型分析法」)を採用し、調査者の判断とその理由を根拠とし、文化的要素の欠如の実態及びその原因を分析した点は評価できる。</p> <p>機能主義翻訳理論を本研究の理論ベースとしているので、個々のコミュニケーション場面における翻訳問題の分析において、その理論に沿った徹底的な分析が必要であろう。また、本研究では、受信者に何らかの行為をするように伝える機能を持つ「効力型テキスト」を取り上げたが、翻訳行為における異文化摩擦の原因を探るには、異なるテキスト(例えば、情報伝達の機能を持つ「情報型テキスト」、発信者の考えと表現を伝える機能を持つ「表現型テキスト」など)を含む様々なコミュニケーション場面についての調査・研究が必要であろう。</p> <p>2023年2月22日に、北九州市立大学北方キャンパス3号館3-321教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(中国言語文化)として十分な内容であると判定した。</p>